

## ～平成 29 年度七飯町海外交流派遣研修事業を終えて～

町民代表 たかはし 高橋 あいね 愛音

私たち平成 29 年度七飯町海外交流派遣研修訪問団は、10 月 3 日～9 日にホームステイをしながらコンコードの視察をし、その後 2 日間ニューヨークを観光しました。

まず驚いたことは、車中から見える家々の大きさです。ホストファミリーであるジャックさん・ナンシーさんの家も、庭やリビングから食洗機まで、全てのものが大きかったです。驚いていると、ナンシーさんは"アメリカは何だって大きいよ"と教えてくれました。するとジャックさんは"でも僕の書斎だけは小さいんだ、しかもナンシーが帰ってくると僕のスペースはリビングの隅に追いやられる"と嘆いていました。二人はとても仲の良い夫婦で、会話を見ているだけで幸せな気持ちになりました。

今回 1 番気に入った場所は、若草物語の作者ルイーザ・メイ・オルコット氏が住んでいた家、オーチャードハウスです。ここでは日本人のガイドの方が案内してくださいました。若草物語が大好きと話す彼女は、表情をコロコロ変えながら楽しそうに解説してくださいました。ここへ来るまで私は正直、若草物語に関する知識はほとんどありませんでしたが、作者のルイーザ・メイ・オルコット氏に会い、物語の背景を知って、小学生の頃以来押し入れに隠れている若草物語が大好きになってしまいました。活字を読むのが苦手な私は今、若草物語を久々に読み返しています。

### -人と人-

ホームステイ期間の中で、コンコードに住む人々のつながりをとても強く感じました。

4 日目にジャックさんとナンシーさんは、近所のパーティーに連れて行ってくださいました。毎月一回、誰かの家で持ち寄りパーティーを行なっているそうです。そこで私と同年の友達もでき、とても嬉しかったです。また別の日には、知り合いのウェディングレセプションに連れて行ってくださいました。そこでも彼らの知り合いを紹介してくださいました。地域のみんなが仲良しで、素敵な町だと感動しました。

### -人と町-

コンコードには、町の歴史を感じさせる様々な場所や人、風景があふれています。色々なお話を聞いて、人々がどのような思いでこの町に暮らしているのかがわかりました。



3日目に、コンコードミュージアムと、独立戦争のあったオールドノースブリッジへ行きました。案内してくださったリーさんやスーザンさんが、独立戦争について様々なことを教えてくださいました。コンコードに住んでいる人は、自分の町についての歴史をよく知っているそうです。私が七飯町の歴史について聞かれても、正直ほとんど答えられないと思います。町の人が自分の町に誇りを持って暮らしているのは素晴らしいと感じました。



町づくりについての話を聞く機会もありました。コンコードで新しい決まりを作る時には、町民が1つの場所に集まって多数決で決めるそうです。町を自分達自身で作っていると実感できる良いルールだと思いました。

また4日目には、グレートメドーズ国立野生動物保護区を視察しました。生物学に詳しい方が、植物や鳥について教えてくださいました。とても綺麗な景色でしたが、驚いた事に、ここは人の手を加えず自然のまま残しているのだそうです。コンコードの中心部も同じ取り組みをしており、建物そのものは変えずに、建物の中を服屋や雑貨屋にして、街並みを昔のまま残しておく工夫がなされているとわかりました。

町の自然や建物、暮らしの全てが町民自身によって大切に守られていることが、とても印象に残りました。

#### -七飯町とコンコード-



3日目にコンコードの町役場を訪れた際、観光事業についてのお話を聞くことができました。七飯町では、大沼公園以外の観光地を訪れる人が少ないこと、観光客のほとんどが滞在せずに1日で帰ってしまうことが近年の課題として挙げられています。コンコードでも、中心部以外にも深い歴史は沢山あるのに、それらを訪れる人が少ないこと、ホテルは沢山あるのに泊まっていく人が少ないことが問題だと教えてくださいました。姉妹都市同士、

共通の問題点があるとわかりました。お互いに、多くの人に楽しんでもらえる町づくりができたらいいなと感じました。

-ニューヨーク観光-

最後の2日間は、ニューヨークで観光をしました。ミュージカルの聖地と言われるタイムズスクエアの景色は、ミュージカル好きの私にとって宝箱のようでした。沢山の店が並んでおり、買い物をすると店員さんがとてもフレンドリーに話しかけてくれました。しかし若者向けの服屋では、ジュースを飲みながらのんびり会計している場面も見られ、それも含めて日本との違いを感じました。大通りではパフォーマンスがあったり、大好きな海外ドラマと同じ風景が見られたり、感激だらけの2日間でした。

-最後に-

この事業では沢山の出会いがありました。気品がありジョークも言えるナンシーさん、おっちょこちょいでおしゃべり好きなジャックさん。ホストファミリーの2人は、初めて会った時の素敵な笑顔を最後まで絶やしませんでした。通訳のジュンコさん、お別れの日に骸骨の仮装で登場したリーさんは、私の隣に来る度、この町について様々なことを教えてくださいました。

国際交流員のアンドリューさんは、世界は小さいようで大きく、コンコードと七飯の人は同じようで少し違う。この違いのおかげで互いに話し合い楽しむことができる、と話していました。またトム・カーティンさんの仕事を引き継いだスーザンさんは、彼のしてきた大変な仕事についてやっと理解できた、非常に誇らしいと話していました。彼らの話を聞いて、この事業がこれからも長く続いていくと確信できました。

他にも沢山の人の出会い、それ以外でも見えないところで多くの方がこの事業に携わっていたことと思います。その方々のお陰でこのような経験ができたことを大変感謝しております。今回の訪問を自分の思い出にとどめることなく、お互いの町の今後について、沢山の人が考える機会をつくるきっかけになればと思っています。